IEEJ：2025 年 7 月掲載　禁無断転載
特別速報レポート

国際エネルギー情勢を見る目（749）　2025 年 7 月 10 日

EI 統計に見る、2024 年の国際エネルギー情勢（2）：エネルギー生産・輸出動向

一般財団法人　日本エネルギー経済研究所
専務理事　首席研究員
小山　堅

前回の「国際エネルギー情勢を見る目（748 号）」に続き、今回の小論では、EI Statistical Review of World Energy 2025 に基づいて、2024 年の国際エネルギー市場の注目すべきポイントをまとめる。今回は、国際エネルギー市場の需給バランスを映す鏡であるエネルギー価格動向を整理し、石油、天然ガス・LNG、石炭について生産及び輸出動向を整理する。

まず、国際エネルギー市場を見る上で常に注目の的となる原油価格だが、2024 年のブレント原油のスポット価格平均は 80.76 ドル／バレルであった。ウクライナ危機の発生によって瞬間風速では 130 ドルを超える高値を記録した 2022 年の平均値、101.32 ドルから 2023 年には 82.64 ドルと 20 ドル近く低下したが、2024 年はほぼ前年並みの原油価格となった。2022 年から比べると、2023～2024 年は市場が一定の落ち着きを取り戻したとも言えるが、年間平均 80 ドル超という原油価格は歴史的に見ても高水準にある。

天然ガス価格については、ウクライナ危機で最も重大な影響を被った欧州市場の TTF 価格は、2022 年の 100 万 BTU 当たり（以下同様）37.09 ドルという歴史的な超高価格から 2023 年の 12.87 ドルへ約 3 分の 1 に低下し、2024 年はさらに 10.89 ドルまで下がった。アジアのスポット LNG 価格の指標である JKM も、2022 年 33.98 ドルから、2023 年 13.77 ドル、2024 年 11.91 ドルとなっている。いずれも、異常な高価格となった 2022 年の水準からは大きく低下し、市場は落ち着きを取り戻したが、歴史的には高価格水準に留まっている。なお、米国のガス価格指標、Henry Hub 価格も価格変化の傾向は上記と同様であったが、2024 年の価格は 2.25 ドルであり、米国のガス価格が他の主要な市場と比較して大幅に低い水準にあることが改めて浮き彫りとなった。石炭価格も同様であり、北西欧州価格は 2022 年の 291.28 ドル／トンから、2023 年 129.54 ドル、2024 年 112.00 ドルへと低下しているものの、100 ドル超の石炭価格は歴史的に見て極めて高い水準であった。2024 年は引き続き国際エネルギー価格は高止まり状況にあったと言えよう。こうした価格状況とも関係を持つ供給動向を、石油、天然ガス・LNG、石炭について順次見ていくこととする。

石油については、2024 年の世界の生産量は前年比 0.6%増の 9,689 万 B/D となった。同年の世界の石油需要の伸びは 0.7%であり、需要の伸びに合わせて緩やかな供給拡大となっている。なお、その状況下で、同年の非 OPEC 生産は前年比 0.9%増の 6,409 万 B/D となったのに対し、需給調整を実施する OPEC の生産は前年並みの 3,280 万 B/D に留まった。また、非 OPEC の中でも、OPEC プラスグループに参加するロシアの生産は、前年比 2.9%減の 1,075 万 B/D と、2022 年から 2 年連続の低下となった。こうした中、非 OPEC の、ひいては世界の石油生産増加の牽引役となったのが米国である。2024 年、世界最大の産油国である米国の石油生産は、前年比 3.6%増の 2,014 万 B/D となった。米国の同年の増産量（前年比）は 70 万 B/D であり、世界全体の石油増産分の 56 万 B/D を上回った。逆に OPEC 最大の産油国、サウジアラビアの生産量は、米国を中心とした非 OPEC 増産に対応して減産実施・強化を続けたため、前年比 3.6%減の 1,086 万 B/D となった。こうして、世界の石油生産上位 3 カ国、米国（シェア 21%）、サウジアラビア（同 11%）、ロシア（同 11%）は、米国の堅調な増産に対して、他の 2 カ国は減産と対照的な生産動向を示した。

また、2024 年の世界の石油輸出は前年比 0.1%増の 6,944 万 B/D となった。主要国別には、米国は前年比 6.3%増、ロシアも同 3.3%増となったのに対して、サウジアラビアは同 6.3%減、と対照的な輸出動向となった。ロシアについては、石油生産は前年比減であったが、経済制裁が続く中でも石油輸出は増加している。地域別に見ると中東の 2024 年の石油輸出は 2,426 万 B/D と世界の石油輸出の 35%を占め最大の輸出地域の地位を保っている。ちなみに、米国の 2024 年の石油輸出は 988 万 B/D と世界最大であったが、同時に 843 万 B/D の石油輸入も行っている。その点、米国の純輸出量は約 140 万 B/D 程度であり、サウジアラビアやロシアのような巨大な純輸出国とは異なる状況にある。

2024 年の世界のガス生産は、前年比 1.2%増の 4,125BCM（10 億立米）となった。同年の世界のガス需要が前年比 2.0%増と堅調な増加となったことに合わせて、ガス生産も着実な増勢を示した。世界最大のガス生産国である米国の 2024 年生産量は、前年からほぼ横ばいの 1,033BCM であった。米国のガス生産は、2005 年の 489BCM をボトムとして、コロナ禍の影響で減少した 2020 年を除き 20 年近く増産が続き、2024 年には 2005 年の倍以上にまで拡大している。他方、世界 2 位のガス生産国、ロシアの 2024 年のガス生産は前年比 7.1%の大幅増で 630BCM となった。とはいえ、ウクライナ危機発生前の 2021 年の生産水準（702BCM）には遠く及ばない。地域別にみると、旧ソ連（前年比 5.0%増）、中東（同 2.3%増）、アジア太平洋（同 2.1%増）などが生産増となる一方、アフリカ（同 5.8%減）、欧州（同 3.4%減）などが生産減となり、地域別ガス生産動向はまだら模様となった。

この状況下、世界のガス輸出にも興味深い変化が見られた。2024 年の地域間パイプラインガス貿易は前年比 7.9%の大幅増で 420BCM となった。一方、LNG 貿易は 0.5%減で 465BCM となった。2024 年の地域間ガス貿易全体（885BCM）に占める LNG のシェアは 53%であり、今や世界のガス貿易の主体が LNG となっている。かつてパイプラインガスがガス貿易の主体で、20 年前の 2004 年にはそのシェアは 76%であったが、LNG 貿易の急速な拡大で 2022 年に逆転が発生、基本的には今後もその趨勢が続くものと考えられている。

2024 年のガス貿易の変化の中で興味深い動きの一つはロシアのガス輸出動向である。2021 年時点では、世界の地域間ガス貿易全体の 21%を占めていたロシアのパイプライン輸出は、ウクライナ危機発生後に急速・大幅に低下し、2021 年の 201BCM から 2022 年 125BCM、2023 年 89BCM へと一気に低下した。しかし、2024 年のロシアのパイプラインガス輸出は、前年比 21.5%増と大きく増加、108BCM となった。この輸出水準自体は、いまだ 2022 年水準を回復するには至っていないものの、19BCM の増分が世界のパイプライン輸出増加（32BCM）を牽引したことは確かである。2024 年のロシアのパイプラン輸出は、欧州向け（6BCM）、旧ソ連諸国向け（8BCM）、中国向け（5BCM）と、いずれも増勢を示した。しかし、かつてロシアからのガス輸出の中心であった欧州向けパイプライン輸出はウクライナ侵攻前の 2021 年 168BCM と比較して、31%の低水準に留まっていることも事実である。他方、LNG 輸出については、世界最大の輸出国となった米国の 2024 年の輸出は前年比 0.4%増の 115BCM となった。米国の LNG 輸出は 2023 年の前年比 9%増の大幅拡大からは伸びが縮小したものの、引き続き増加が続いており、今後も世界の LNG 輸出、ひいては世界のガス貿易全体の成長を牽引していくことが予想されている。

2024 年の世界の石炭生産は、前年比 0.9%増の 92.4 億トンとなった。安定供給と手頃なエネルギー価格の重要性がクローズアップされる中、石炭消費が拡大し、それに見合う形で石炭生産も拡大した。世界の石炭生産の 52%シェアを占める中国で前年比 0.9%の増産、同 12%シェアを占めるインドで前年比 7.0%の大幅増産となり、他地域の減産を補う形になっている。世界の石炭輸出は 2024 年に前年比 1.3%増と着実に増加した。世界 1 位の石炭輸出国インドネシアの輸出が前年比 5.3%増、2 位の輸出国オーストラリアが同 3.7%増と堅調な輸出拡大となったことが全体のトレンドを左右する結果となっている。

以上

お問い合わせ：report@tky.ieej.or.jp